

令和元年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

三者の比較

R元 生徒・保護者・職員間の比較

質問項目	元年度調査			30年度調査		
	生徒 %	保護者 %	職員 %	生徒 %	保護者 %	職員 %
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	90	88	98	83	84	100
2 わかりやすい授業の実施	76	76	93	71	73	95
3 学習指導の徹底	74		83	66		80
4 家庭学習・課題の点検	79	69	83	77	66	85
5 応用力のつく授業の実践	68		65	61		73
6 生活のきまりやマナーの遵守	81	88	90	79	86	83
7 生徒会活動や部活動の活発さ	92	92	88	94	94	95
8 勉強と部活動の両立	78	75	90	70	73	83
9 生徒への安心安全の支援	84	80	98	87	79	93
10 登下校時等の安全指導	89	81	90	88	80	95
11 希望進路の実現	86	81	93	83	78	100
12 適性を考慮した進路指導	86	77	90	82	74	98
13 保護者と連携した進路指導	78	70	90	77	67	95
14 二高に入学「良かった」	81	89	(注2)98	79	91	(注2)95
15 安全・清潔な学習環境の保持	91	93	98	88	92	100
16 生徒の相談への丁寧な対応	79	79	95	79	80	100
17 生徒の居場所づくり	79	83	90	82	84	100
18 保護者と連携したPTA活動		76	90		77	93
19 地域への貢献	85	84	98	85	86	90
20 学校徴収金の額	(注3)86	93	95	(注3)87	92	95

生徒 -保護者	生徒 -職員	保護者 -職員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
2	-8	-10
0	-17	-17
	-9	
10	-4	-14
	3	
-7	-9	-2
0	4	4
3	-12	-15
4	-14	-18
8	-1	-9
5	-7	-12
9	-4	-13
8	-12	-20
-8		
-2	-7	-5
0	-16	-16
-4	-11	-7
		-14
1	-13	-14
		-2

(注1)選択肢「a大いにそう思う」「bそう思う」を合わせて「肯定的な評価」、「cあまり思わない」「d全く思わない」を合わせて「否定的な評価」とした。
 (注2)項目14の「職員」は「法令・規範の遵守」 (注3)項目20の「生徒」は「適性や興味関心に応じたコース選択」

【分析1】 全体的な傾向について

今年度も昨年度とほぼ同じような傾向を示した。肯定的な評価が70%以上の項目が多い(生徒18/19 保護者17/18 職員19/20)が、学習と進路に関わる項目で低めの評価が目立つ(5・3・2・8)。生徒の評価において、肯定的な評価が低い項目は昨年度に引き続き項目5の「応用力のつく授業の実践」生徒68%、職員65%であった。また、項目4「家庭学習・課題の点検」が保護者の肯定的評価が最低の69%であった。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「15 安全・清潔な学習環境の保持」「20 学校徴収金の額」今年度も高い評価を得た。15は、毎日はもちろん、各行事の時の掃除の徹底や、速やかな修繕箇所への対応のためと考えられる。20については、適正な金額ととらえられていると考えられる。

「1 教育目標の周知」 昨年も高評価であり、今年度は生徒と保護者の評価が改善した。学年通信をはじめとした各種通信の細やかな発信が評価されたと考えられる。生徒と保護者とのコミュニケーションを更に密なものにしたい。

今年度も昨年度とほぼ同じような傾向を示した。肯定的な評価が70%以上の項目が多い(生徒18/19 保護者17/18 職員19/20)が、学習と進路に関わる項目で低めの評価が目立つ(5・3・2・8)。生徒の評価において、肯定的な評価が低い項目は昨年度に引き続き項目5の「応用力のつく授業の実践」生徒68%、職員65%であった。また、項目4「家庭学習・課題の点検」が保護者の肯定的評価が最低

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」今年度も生徒と保護者から90%を超える評価を得ている。職員の肯定的評価が低下しているのは、生徒は部活動にもっと積極的に参加できるはずという期待があるからではないかと考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策等】

「5 応用力のつく授業の実践」 昨年に引き続き生徒・職員で最も評価が低かった。学年を追うごとに学習内容が難しくなり、成績の評価が下がってくる人が多い。加えて外部模試等での結果が振るわないことが低評価の原因になったと思われる。

改善のためには授業の工夫はもちろんであるが、家庭学習習慣の定着が必須である。日頃の粘り強い取り組みにより改善を図る。

「4 家庭学習・課題の点検」 保護者から低い評価となった。(1学年63%、2学年68%、3学年74%)特に1学年の保護者は、生徒の家庭での学習が不足していると考えていることが覗えるので、家庭学習習慣の定着が急務である。

学校における指導の他に保護者との連絡・協力が重要である。意思の疎通を密にして改善を図る。

「3 学習指導の徹底」 昨年度よりわずかに改善されたとはいえ、生徒・職員ともにワースト2の評価である。生徒はもっと説明して欲しいという気持ちを持つ生徒が4人に一人いる。職員は生徒にしっかり学習に取り組んでほしいという考えがあると思われる。

授業と家庭学習を両輪に基礎基本の定着と、良質な問題演習で応用力を強化する。生徒の進路目標達成のためには日々の努力が重要であることを理解させ学習に励ませる。

「13 保護者と連携した進路指導」 生徒・保護者と職員で評価の差がそれぞれ約10%ずつある。保護者の評価が70%と低いのは、学校からの情報をもっと知りたいという希望があると考えられる。三者面談の持ち方の工夫やPTA進路学習会の持ち方、更に丁寧な進路通信の発行が望まれる。

進路学習会開催日の工夫による保護者の参加率向上、時宜に応じた進路情報提供について、更に工夫を検討する。進路通信等が確実に保護者まで届くような工夫が必要。

「8 勉強と部活動の両立」 評価は生徒70%→78%、保護者73%→75%、職員83%→90%と良くなっているが、全体としては低い評価となっている。職員の評価が90%台に上昇したのは、部活動の休養日が徹底されたことが考えられる。

週1日の休養日を大切に活用し勉強にあて、文武両道の質をさらに高める。貴重な休みの時間をスマホ等で浪費しないよう、保護者と連絡を密にし、協力を得る。